

本會記事

總會記事

會期、會場並に代表出席者

十一月廿三日午前拾時から總會を開會した。平年なれば此の二十三日が神嘗祭で休暇であつたから、此の日を選定したのであつたが、本年は御大禮の結果、休暇でない事になつたのは已むを得ない次第であつた。從而學校には講義があつたので教室を使用することも出来ず、結局生物學教室を借り受け電燈の設備等して此所で開催した。

本日各支部並に本部の出席者は左の如くである。
支部代表者

東京支部	久保田昌人氏	白澤	幹氏
神奈川支部	長見公祐氏		
兩毛支部	小澄	晉氏	
東海支部	久保田嘉一郎氏	唐澤正平氏	岡部彌平氏
近畿支部	塚田鎮麿氏		
山陽支部	小川	保氏	八木誠政氏
山陰支部	小野正男氏		石坂虎次郎氏
四國支部	朝長勝治氏		

兵庫支部	清水逸五郎氏
北奥支部	佐藤良太郎氏
宮城支部	西川梅次郎氏
茨城支部	中根 廣氏
福島支部	田附卯一郎氏
山形支部	近藤正巳氏
新潟支部	佐藤俊三氏
北陸支部	曾山直高氏
南信支部	三輪 輔氏
北信支部	飯嶋正胤氏

尾見祐八氏

鶴田定平氏

齋藤菊雄氏

二宮九二二氏

山本辰五郎氏

穂坂小牧氏

岸勝 彌氏

猪坂直一氏

本會役員

浦生俊興氏
小林茂樹氏
林 貞三氏
濱井壽夫氏

原田兵衛氏
野崎 清氏
高木三治氏
倉澤美徳氏

松村季美氏
岡部 彌平氏
森山二郎氏
杉木政義氏

本會幹事 廿五名

本會記事

本會議の詳細なる記事は直接支部長に報告して置いたから茲には極めて大意だけを記載することにした。

針塚會長開會の辭を宣べ、引き續き、浦生理事長昨年來の經過を報告し、議長は理事長、一同の承認を経て、佐藤長太郎氏を指名し、議長の挨拶があつた後議事に進入つた。問題は大体四つに分かれたので、本會並に支部の問題を一括して附議された。唯本會のみに關した事は次の三項であつて夫々別記の如く決定されたのである。

(一) 本會豫算に關する件

本會豫算は今回提出された問題と種々關係がある爲に、原案が多少補正されて、卷末に附されたやうに決定された。

(二) 役員補缺選舉に關する件

本會監事樋口琢麿氏が本年度に於いて御逝去遊ばされたので、その補欠選舉を行ふたのと、從來缺員であつた理事とを補充し左記二氏が選出された。

理事 長野縣上田市

久保田正樹氏

監事 同北佐久郡小諸町

小山二郎氏

(三) 會費未納處理方法に關する件

會費の未納は本會の致命的なもので、會の經理上困却するのみならず、未納者の處置にもホト／＼困難して居る。之に對して種々の議論も出たが、結局本會よりは出来るだけ條理を盡して督促し、又支部長に於ても、管内の未納者に對し特に完納方に努力を拂ふと云ふことに決つた。

次に本會支部共に關係ある問題の決議は次の如くである。

(一) 二十周年記念事業に關する件

二十周年記念事業は目下生憎前代未聞の不景氣に遭遇して居るので、對外的寄附行爲の關係上二十五周年に延期しては如何と云ふ説もあつたが、一兩年來の計畫でもあり勞々盛大に舉行することに全會一致を以つて決定し、委員會では次の具体案を作成して本會議の容るゝ所となつた。

委員氏名 三輪、唐澤、塚田、久保田(昌) 會山、長見、佐藤(俊) 原田(委員長) 尾見、濱井、高木、林

計十二名

收入豫算 總計金五萬五千圓也

内譯

一〇、〇〇〇圓 二十周年記念特別積立金より支出

一〇、〇〇〇圓 會員中より特別寄附一口五圓宛二千口の豫定

一五、〇〇〇圓 製絲業者輸出業者より寄附を仰ぐ

七、〇〇〇圓 蠶種製造家養蠶業者等より寄附を仰ぐ

一三、〇〇〇圓 上田市有志其の他より寄附を仰ぐ

支出豫算 總計金五万五千圓也

内譯

四〇、〇〇〇圓 針塚記念會館建築設備費

三、五〇〇圓 祝賀式費

四、五〇〇圓 募集費其の他諸雜費

二、〇〇〇圓 針塚校長へ贈呈

五、〇〇〇圓 祝賀講演會費及諸印刷通信費

外に同窓會の事業として二十周年記念特別積立金の殘金八、〇〇〇圓を雜誌擴張費、並に母校教職員謝恩費に充つ。

(二) 母校に對する希望事項

一度校外に出て、實際的立場に立つて見ると、對外的關係、連絡等に就き、種々學校へお希ひしたい事がある。夫等に關する問題が討議された譯であつて委員會に於ける決議の大意は左記の如きものであつた。

委員 松村、小林(委員長) 八木、小川、佐藤(良) 白澤、二ノ宮、西川、飯嶋、朝長、杉木、蒲生

○研究生の設備を充實して可成多數勧誘されたき事。

○校外實習生派遣の場合には、其の地方支部の同窓生とも何等かの連絡を配られたきこと。

○支部の總會には連絡上母校職員、又は本會役員を可成出席せしめられたきこと。

○地方に於て講演會を開催されては如何？

○其の他二三項。

(三) 本會に關する問題

本會に對しても種々の希望事項が附議された。經費其の他の關係で出來難い問題に對しては、一々理由を開陳して、了解をもとめ結局、委員會にて次の事項が研究され、本會議に於て確定した。

委員 山本(委員長) 佐藤(重) 岸、清水、平澤、岡部、石坂、齋藤、穗坂、荻原、倉澤、

○專任常務幹事を設置すること。

○母校を通じての場合は勿論、母校に關係無き場合に於ても兎に角、就職轉勤の場合には、月俸の一割を、三ヶ月以内に本會宛寄附すべきこと。

本會に於ては寄附内規を設け、來年一月より施行すべき事。

○本會に學術部を設け、同窓生の希望により、質疑應答は勿論、研究材料の蒐集、資料の調査等を爲すべきこと。

○代議員旅費は一年も早く、全部支給すること。

○各支部の電報略語を制定すること。

(四) 規則改正其の他の問題

規則改正に就ては二、三の提案を見た。而して支部としては處理上如何にも尤もの問題ではあつたが、本會施行上の實際に照し、多少不便の點もあり、旁々現在のまゝになつたものもあつた。

委員 田附(委員長) 近藤、小澄、猪坂、久保田(嘉) 小野、中根、野崎、北澤、窪田、森山

大体委員會に於て決定報告された事は次の通りである。

○現在の規則では決算が總會の決議を経ることになつてゐるが、監事の鑑査を経たる後總會に承認を求めれば足ることに変更す。

○先年兩毛支部の提出にかゝる會員相互扶助案に就ては、同會では、社團法人茗溪共濟會の定款を骨子として、非常に詳細の研究を遂げ、之を委員會並びに、本會議に於て説明して呉れた。其所で之は誰しも望む最も重大なる問題につき、本部を主としたる調査員に兩毛支部中よりの委員を加へ五名乃至七名を擧げ、費用を計上して調査し一般に賛同を求めて實際化することに決まる。

以上の大意中より更に最も必要な、問題を拾ひ出して見ると、次の三件になる。

- (一) 二十周年記念事業として外部から相當の寄附を仰ぐことになつたから、支部各員の特別なる御援助御活動を御願ひ致し度きこと。
 - (二) 尙會員としても、從來の會費以外に一口五圓宛約二千口の豫定で寄附を仰ぐことになつたから、之又御出金を願ひ度きこと。
 - (三) 就職轉勤の場合には、之等に要する費用と思ひ特に寄附ありたきこと。いづれ内規を制定して適當の時期に御送りする。
- 理事長の閉會を宣したのは午後十時であつた。

以上

大會並に講演會雜記

今回、本、支部から提出された問題は、非常に多かつた。其の内容に於ても、從來未だ嘗て無い重要な事項が含まれ

てゐたので、可成問題を研究し易からしむる爲に、豫め、四ツの主要事項に分解し、整理して提出した。それでも、之れだけの問題を討議し盡すには、到底晝間だけでは濟まないと考へられたので、夕飯も簡單に準備し、電燈も充分設備して置いた。會議は午前拾時から始まつて、夜十時に終る迄實に十二時間に渡つたが、其の間、晝食に唯の一時間休憩したばかりであつた。夜食等も委員會の席に持ち込み、議論を戦はせつゝ「ドンブリ」をかつこむと云ふ始末であつた。會場は生物學教室であつて、僅かに階段となつてゐる。其所で晝をあざむくばかりの電燈を點じ、極めて嚴肅な氣分で、熱誠をこめて、意見を滔々と開陳する風景は全く劇的シーンであつた。然し議長が職掌柄御手のものであり、議員が何れも朝野の紳士であつたが爲に、議事は極めて圓滑に進捗して、澁滞停頓と云ふ事が更に無かつた。

天氣都合は非常に恵まれたものであつた。晝は稀に見る快晴の小春日和であつたが、夜分は例の信州特有な透徹した冷氣であつて、辛辣に骨を刺す様であつた。

會議果て、ホツトした氣分で軽く染めた頬を外套の衿に埋めて外に出ると、此の冷氣が遽然として一齊に襲撃して來る。十日の片われ月は小牧山頂の中天にかゝり、其の蒼白い光りは、木と言はず、建物と謂はず一色に染めて恰も水晶宮の中を往くが如くに感じられた。昔も今も更に變りの無い、この光景を味つては、懷舊の情轉た禁じ難きものがある。學校でも萬事非常な便宜をはかつてくれた。晝食には學校長の招きによりなつかしき、寄宿舎に於いて、晝飯を御馳走になつた。此の際に於ける學校長の「テーブルスピーチ」は、例によつて堂に入つたものであるのみならず、慈父の如き温かさが、泌々と各個休に一齊にしみわたる様な氣がした。又甘茶會でも大いに歓迎の意を表して、平年は十月中旬乃至下旬に開くべき所を、例を破つて此期に開催し、藝術味たつぶりの寫眞、繪畫等を見せてくれた。特に、この方面に興味のある人にとつては、多少なりとも旅情の徒然を慰めた事であらう。

廿四日は觀水亭に於いて講師の慰勞會を兼ね吾々同窓生の懇親會が開かれた。彼の廣い百數十疊敷きの大廣間が一杯になつて了ふ程の盛會さであつた。無邪氣の昔に還つて、頭の禿げたオヂサンと、未だうら若い、紅顔の美少年とが紅

白入り亂れてデカンショを高唱し、滿場を壓倒させた。二次會に這入ると、其の期其の期の人々が思ひ／＼に一團となつて、西し、東し、又は合同して大いに舊交を温めた様であつた。興に乗じて遂飲みすぎし、屋代で下車すべき所を直江津まで直行して了つたと云ふ大脱線の秀逸を演じた人もあつたと云ふ事だが、其の眞偽は詮索の限りでない。兎も角本日の懇親會をかくも盛大に幹旋してくれた、地元幹事、屋代の飯嶋正胤君と、上田の高木三治君等に敬意を表する次第である。

講演會は廿四日から廿六日まで左のプログラムに依つて行はれた。

講師及演題

十一月二十四日

自午前九時至十時

挨拶

上田蠶絲專門學校

針塚長太郎氏

自午前十時至正午

細胞學上より見たる蠶の單性生殖

上田蠶絲專門學校 教授 農學博士

佐藤春太郎氏

午後一時至午後四時

絹絲と絹織に就いて

絹業試驗所 技師 工學士

棚橋啓三氏

自午後五時 懇親會

二十五日

自午前九時至正午

米國の絹業に就いて

蠶絲同業組合 森田三郎氏

自午後一時至午後四時

養蠶及養蠶學上必要なる函數的現象に就いて

京都帝國大學 八木誠政氏
助教 櫻理學博士

自午後七時 約二時間研究報告會

(第一部養蠶業方面、第二部製絲紡織業方面とし各自研究の發表をなす)

二十六日

自午前九時至正午

桑樹の生理學的研究

上田蠶絲專門學校 遠藤保太郎氏
農學博士 理學士

自午後一時至午後四時

蠶の軟化病豫防の要義

上田蠶絲專門學校 佐藤利一氏
教授 農學博士

自午後七時 約二時間研究報告會

(第一部養蠶業方面、第二部製絲紡織業方面とし各自研究の發表をなす)

研究會は廿五日と廿六日の晚左のプログラムに依つて行はれた

研 究 會 演 題

二十五日 午後六時開會(會場講演會場)

第 壹 部

一、長野縣の夏秋期空頭病と細菌との關係

一、蠶蛹の糖原質及窒素の消長の化學的所見

勝又藤夫氏
尾藤省三氏

- 一、溫度の酵素作用に及ぼす影響に就て
- 一、催眠期の營養並に眠期の溫濕度に就て
- 一、催青期間中に於ける蠶卵胚子の抑制が蠶兒の發育に及ぼす影響に就て
- 一、氣門閉鎖に因る呼吸障害と絹質物生成との關係に就て (豫報)

一、桑樹萎縮病に關する一考察

二十五日 午後六時開會 (會場舊化學第十一教室)

第二部

一、生絲貿易と金解禁

- 一、繭の貯藏法に就て
 - 一、深夜業廢止に就て
 - 一、解舒指數に依る解舒の表現に就て
 - 一、セリブレーションに現はれる生絲の白き汚斑に就て
 - 一、エネルギー代謝試験による工女の食事時間
 - 二十六日 午後六時開會 (會場講演會場)
- (第一部、第二部、合併)
- 一、支那の蠶絲業に就て
 - 一、朝鮮、支那 (上海附近) 繭の繭質に就て

松村季美氏
 金崎眞英氏
 齋藤菊雄氏
 浦生俊興氏
 依田彌亮氏
 永井覺氏
 鶴田定平氏

森田三郎氏
 岡村源一氏
 森山二郎氏
 平澤勝氏
 窪田潤氏
 依田寛之助氏

白澤幹氏
 林貞三氏

丁度生憎廿四日、廿五日の兩日は上田市公會堂に於いて、長野縣蠶種業者大會が開設されてあつたから、多少は影響したやうだが、大体に於いて盛會なものであつた。講演は勿論、適切であつて聽講者に非常の感動を與へた。

殊に今回の講演に於いて、吾々の同慶に堪へない事は、講師として、同窓の二人を持ち得た事である。蠶糸業中央會の森田三郎氏は日本に於ける「米國絹絲事情」の最大權威者、京都帝國大學の八木誠政氏は我校の産める最初のドクタ、兩氏は東西に相呼應して花と咲き、大いに母校の爲めに氣焔を吐いてゐる。近く森田氏は數度目の渡米をされるそ
うである。

研究會は夜分でもあり、且つ連日の疲れも出て出足がにぶるだらうと内々心配してゐたが兩日とも其の豫想を裏切つて晝にも劣らない盛況であつた。第一部（養蠶）は會場そのまゝを使い、第二部（製絲紡績）は舊化學教室を使つて兩部とも夜拾時まで休息なしに續行した。二十六日の晩は兩部合体して、會場そのまゝを使用した。丁度歸へり日であつたに拘らず聽講者の數は前日に劣らない程であつた。如斯盛會裡に終ることの出來たのも、畢竟するに研究發表者の權威ある材料に基くものであつて、此の場合に於て多大の敬意を表する次第である。

今代議員會並に講演會に出席された吾が同窓の卒業期別に統計を取つて見ると、次の如きものである。

卒業期別出席者調

第一回	一二名	第六回	六名	第一一回	六名
第二回	一四名	第七回	五名	第一二回	九名
第三回	七名	第八回	三名	第一三回	一一名
第四回	一〇名	第九回	一〇名	第一四回	一〇名

第五回

六名

第一〇回

八名

第一五回

一六名

各特別出席者調

科別	來會者	校内同窓生	計
養蠶科	七二名	一八名	九〇名
製絲科	三一名	六名	三七名
紡績科	二名	四名	六名
總計	一〇五名	二八名	一三三名

而してこの來會者の中にも、特に非常な差し繰りをして出來難きをしたので無理算段に來て下さつた方もあり、遠くは青森、四國、山陰等からはるばる來て下さつた方もあり、一々事情をおき、すれば其處にも感激惜く能はざるものが非常に多かつた。

出席者の統計を曲線に取つて見ると、兩極端が高くつて中央は低く凹んだ形を象してゐる。想ふに本校の同窓生も先輩の一端だけは稍々、放たれた形で、多少自由な位置に在る様になつたのではなからうか？ 而して眞ん中は今、社會の眞只中に浸つて、フライハイトを拘束され、手も足も出ない様に釘着された運命を負ふてゐるのでは無からうか？ 新しき後輩の一端と雖も今は幸にして、割合にフリーの位置にあるけれども、應ては、此の曲線にオブライジされて遣れることの出來ない、ローカスを連るのではなからうか？ 何れにしても此の曲線は本會々費納入率と一致するので、エニグマ・オブ・スフィンクスとして理由なしに片付けられないのである。

代議員會も講演會も共に之れで二回の經驗を積んだ譯である。準備は相當に盡した心算でも幾多の不備が続々と顯れて來る。そして其の不備な點が第三回目の完備を致へて呉れる。其の不備の點を謝しつゝ來會者各位に謹しんで敬意を表する次第である。(一一・二五)